

社団法人 私立大学情報教育協会  
平成 20 年度第 4 回栄養教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

- I. 日 時： 平成 20 年 3 月 26 日(木) 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分  
II. 場 所： アルカディ市ヶ谷(私学会館)  
III. 出席委員： 武藤 委員長、中川委員、酒井委員、小野坂委員、石崎委員、  
井上委員、室伏委員  
井端事務局長、森下、恩田

#### 報告

- 1 前回(1 月 24 日)の報告事項の確認をした。
- 2 前回の検討事項の確認をした。
- 3 前回資料①(分野別委員会の活動について)と②(分野別「学士力」考察の中間報告)の差し替えがあった。ただし、栄養学分野ではない。

#### 検討事項

前回から継続審議になっている「学士力の詳細設計について」をテーマとして、具体的な到達目標を明確化し、その測定手段を得ることを念頭におき、フリートークングを行った。すなわち、前回の委員会で、栄養学分野の教育で最低限身に付けることが望ましいとして一致した 5 項目(下記の 1.～5.)の各項目について、コアカリ(栄養改善学会)、到達目標、測定手段を考慮して、栄養学分野で必要な基礎的能力を掘り下げて議論した。

この結果、次の結論を得た。ただし、5.については、時間切れで、持ち越しになった。

1. 栄養・食生活と心身の健康との相互関係を理解できる。
  - (1) 栄養素(3 大栄養素・ビタミン類・ミネラル)の役割を説明できる。
  - (2) 栄養素の代謝を概説できる。
  - (3) 栄養の代謝との関係から人体の構造と機能を概説できる。
  - (4) 栄養摂取と健康との関係が説明できる。
2. 栄養・食品・調理の知識を持って、個人および集団の健康増進・維持・管理に関する栄養教育ができる。

#### [知識]

- (1) 食品中の主要栄養成分が説明できる。
- (2) 機能性からみた調理方法について説明できる。
- (3) 各ライフステージにおける栄養の特性を説明できる。
- (4) 学校や職場などに対応した栄養教育について説明できる。

#### [技能]

- (1) 栄養カウンセリングにおける援助の技法を身に付けている。

- (2) 栄養・食生活に関するアセスメント、計画・実践・評価ができる。
  - (3) 栄養教育に必要な資料または情報を作成・選択できる。
3. 疾病の予防・治癒および再発を防ぐための食事・栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる。

[知識]

- (1) 疾病の成因と治療法(食事療法、薬物療法、運動療法など)について概説できる。
- (2) 栄養管理(予防・治療・再発防止)のための食事療法の必要性について概説できる。

[技能]

- (1) 病態別の食事箋に基づく献立が作成できる。
  - (2) 各疾患の栄養管理について立案・実践・評価・改善できる。
4. 食環境づくり(食情報・食物確保・食の安全など)の必要性を理解できる。

[知識]

- (1) 食の安心・安全性(法規・制度・施策・リスク情報など)について概説できる。
- (2) 食情報の適否を判断できる。

[技能]

- (1) 正しい食情報にアクセスして、活用できる。
  - (2) 食中毒を予防する技術を身に付けている。
5. 栄養マネジメントの基礎となる栄養評価と栄養改善計画が実施できる。
- 時間切れのため、各委員が次回までに考えることになった。